

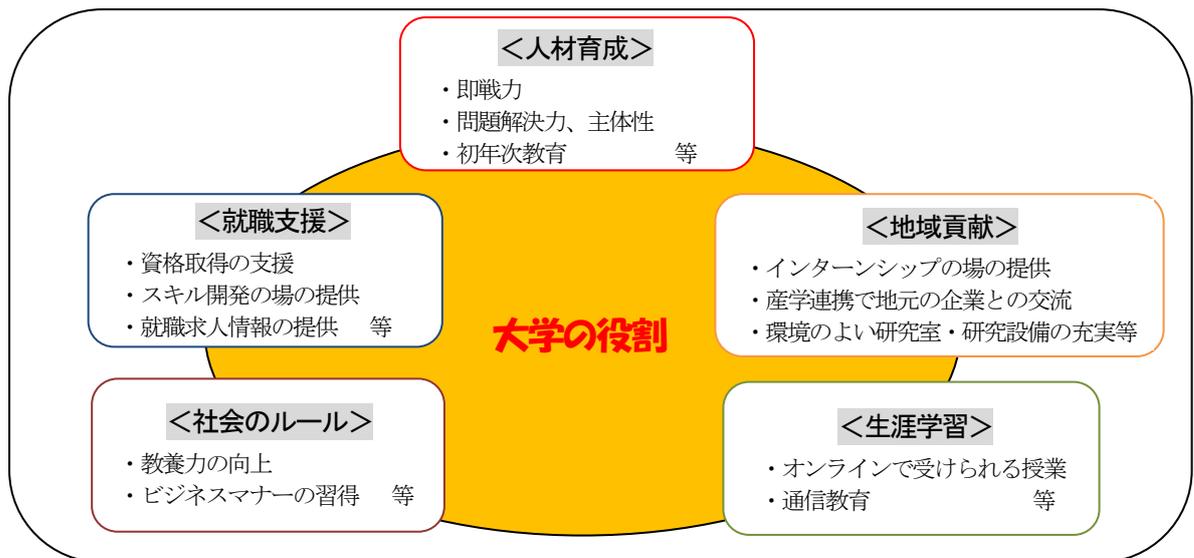
『人材育成』

～主体的な学生を育成するための多角的視点からみた方策～

《テーマ設定》

1. 大学の役割

まず大学の役割とは何かについて議論し、①人材育成、②就職支援、③地域貢献、④社会のルール、⑤生涯学習の5つが挙げられた。これらの役割を果たすために大学は何をしなければいけないのかを討議していた。なお、討議した内容を図にしたものが以下のものである。



私たちが考えた大学の5つの役割はそれぞれ重要であるが、すべて『人材育成』が基礎となっているのではないかとの結論に達し、『人材育成』を柱として更に深く討議していくこととした。

2. 大学の現状

『人材育成』では、どのような人材を育成するのが望ましいのか考えたところ、即戦力がある学生、問題解決力・主体性がある学生などの意見が出た。そこで『主体的な学生』という点に注目して、『主体的な力とは…?』(理想)について討議し、問題解決力・自分の意見を言える力・行動力・応用力・自己啓発・判断力・責任力・目標設定力が必要であるとの意見が出た。

次に学生の現状はどうなのかについて討議を行い、他人任せ・目的や目標が定まっていない・常識を知らない等、私たちが理想とする主体的な力を持った学生とのギャップが大きいことに気づかされた。そして、その違いはなぜ起きているのか議論したところ、失敗経験しない・楽できる環境の中にいる・多様な入試方式により基礎学力に差がある等、様々な要因が挙げられた。

この理想と現状の違いから、大学の役割を果たすために、教員・職員が協力して学生に様々な経験をさせる・フォローやフィードバックを出来る環境をつくる・少人数制の授業・初年次教育等を強化することにより、「主体的な学生を育成すること」が大学にとって重要であることが確認され、私たちの班ではテーマを『人材育成～主体的な学生を育成するための多角的視点からみた方策～』と設定した。

《大学のイノベーションの提案》

上記の設定したテーマに基づき以下の大学のイノベーションを提案する。

1. 提案の概要

主体性を持った学生を育成するために既存のコンテンツを改良していく仕組みをつくる。

2. 大学イノベーション提案

『「初年次教育」と「少人数制の授業」のコンテンツに対して、チェック機構と反映機構の導入によるPDCAサイクルの確立』を提案する。

3. 提案内容

現状の人材育成においては、『主体的な力』（「問題解決力・自分の意見を言える力・行動力・応用力・自己啓発力・判断力・責任力・目標設定力等）が欠如する学生が多くなってしまっていると感じている。その解決策の一つとして、「初年次教育」および「少人数制の授業」の拡充を提案する。

初年次教育や少人数やグループ制の授業などは、既に多くの大学が導入しているのも現状である。それにもかかわらず主体的な学生の育成で成果を上げることができていないのかを考えると、初年次教育や少人数制の授業におけるコンテンツに対するチェック機構がマンネリ化し、またチェック機構の反映も機能してないのではないかと考える。そこで、チェック機構と反映機構の強化を図る。

例えば、チェック機構では理念・ポリシーに沿った教育ができていないか、学生の主体性の育成成果があがっているかをチェックし、問題点の把握、学生への授業アンケート内容の充実やデータ収集・分析を多角的に検証する調査室を設置する。また、反映機構では授業方針の再検討や教職員の意識統一、教職員合同のFD研修会の開催等の改革をすることによって、「初年次教育」や「少人数制の授業」をより充実させ、学生の『主体的な力』のより一層の向上を目指す。なお、この提案は以下の図のようにPDCAサイクルの機能を果たしており、『人材育成』という大学の役割を継続的に改善する効果もある。

このように、チェック機構と反映機構を強化したことにより、「初年次教育」と「少人数制の授業」のより一層の充実を図り、多くの学生が『主体的な力』を身につけることが可能であると同時に、私たちがテーマ設定した『人材育成』を柱とした大学の役割の一端に寄与することが出来ると確信する。

